

開催しましょう!

本年10月2日に、コペンハーゲンにて、IOCの総会で決定します。

♣ 東京には、多くの奇跡がある。



第1次で 公認 決まる



来年の夏の

保坂さんぞうさん

参院比例区 出馬

保坂さんが、先の参院選に敗北して、既に一年十ヶ月がたちました。この間、党都連の各機関、例えば、女性部、区市町村議員団、都議団そして、各種団体(代表、浅井時郎氏、副代表、渡辺志雄氏)が、党員確保や本部への陳情戦などで前面に立ち、保坂さんの国政復帰に向けて、大きな力を発揮してくれました。当初は、衆議院東京ブロックへの比例名簿の上位登載という運動でした。その後、参院選が来年夏に迫り、元々の参議院への復帰を進められ、東京都連(石原伸晃会長)の承諾の下、本部との話し合いで今回の決定に至りました。

東京選挙区は 中川さん

衆院の解散総選挙が、景気対策優先で封印されていますが、九月が任期満了。東京は、二十五選挙区で候補者を擁立しています(十二区は、公明党の太田代表を推薦)ところが、来年に参院選が迫って来ましたが、党本部は、この参院選に、先ず、比例区の候補者の第一次公認候補を決め、各種団体との連携強化を図る方針です。選挙区は、今回は、中川雅治氏が任期満了となります。全国では、小選挙区候補者が決まっていないうち、東京選挙区は、中川さんの公認が、間もなく発表される模様です。

先ず、衆院選、都議選の必勝を! 後援会躍進の集いで盛り上げ

皆様に感謝
致します



保坂さんぞう後援会
連合会会長

遠藤俊一

この度の挑戦権確保には、多くの皆様のご友情が支えでした。結果的に、党本部が、認めてくれた条件が、この支援の力でした。

皆様には、色々なお立場があると存じますこの点は、深くお詫び申し上げます。皆様ありがとうございました

関西の元気
中村美津子さん
いよいよ登場
実は、アトラクションも毎回好評なのです。今回は観るビタミン中村さんです。

第二部アトラクション

日比谷の大会は、既に恒例となつて、今回は、一回目、後援会にとっては、その時その時の歴史を刻んできました。時には保坂さんの戦い前夜、又、落選の直後もありました。毎回が意義ある大会になりましたのも、皆様のお陰です。



保坂さんぞう後援会・幹事会

後援会も了承

後援会本部会で決定

第一次公認候補決定に従い、心配していた後援会幹部が、続々と集まりました。遠藤後援会長から、多くの皆様から救われた、このような結果に感謝して頑張ろうと、了承する旨提案がありました。深谷後援会最高顧問、議員団各種団体の皆様からも、頑張れと激励があった後、服部都議から、地方議員もついて行くと檄がありました。保坂さんから、感謝の表明と決意表明がなされました。結びに、田島虹の会々長が、決意も新たに必勝の手締めを行いました。



保坂三蔵さんを 国政に戻しましょう

東京都各種団体協議会代表世話人
社団法人全日本トラック協会名誉会長
社団法人東京都トラック協会名誉会長
浅井 時郎

自由民主党の地方組織の一つに自民党東京都支部連合会、通称「都連」があります。国会議員、都議会議員、区議会議員、市議会議員、区議会議員で構成されており、会長は石原伸晃・衆議院議員、会長代行は保坂三蔵・前参議院議員、幹事長は内田茂・都議会議員、総務会長は平沢勝栄・衆議院議員、政調会長は鴨下一郎・衆議院議員となっています。

その自民党都連を強力に支援している東京都各種団体協議会という組織があります。三百五十余の各種団体が加入しており、私はその協議会の代表世話人を務めさせていただいております。五年ほど前だったので、当時、代表世話人をされていた明治座会長の三田政吉さん（二〇〇六年一月、九十五歳で逝去）から「そろそろ代表世話人になってもらえないだろうか」と再三請われ、それからこの役職にあたっておる次第です。

10年参院選の比例区出馬

私は生粋の自民党員であります。そんな私がかえすがえすも残念な思いをしたのが、「自民党が歴史的な大敗」となった二〇〇七年夏に行われた第二十一回参議院議員通常選挙で保坂三蔵さんが落選したことです。



浅井時郎・東京都各種団体協議会代表世話人

彼は一九九五年の参議院選挙に初当選し三期目への挑戦だった。結党以来初めて自民党が参議院で第一党から転落したというおまけまでついた。年金問題などの逆風も影響したのは確かだが……。

この参議院選挙から、東京選挙区は改選数が増え五に二となり、自民党は九年ぶりに二人を公認しました。前回選挙（〇一年第十九回参院選）で百四十万票超を獲得して大差でトップ当選した保坂さんと、アナウンサーだった丸川珠代さんが候補者になりました。保坂さんは都連を上げての組織戦を展開しており、誰もが危ない選挙戦を闘っていると思っていました。一方、丸川さんは「無投票問題」を抱えて苦戦していました。その丸川さんが「支持団体の協力」

の一部を自分にまわしてほしい」と保坂さんに申し出たというようなことがあったやに聞いておりますが、いずれにしろ、丸川さんが滑り込みで五議席目で当選し、保坂さんは落選して次点、約六十五万票獲得と〇一年の半分も取れませんでした。現在、東京都連には衆参自民党議員が五十人います。私が党員になった頃は二十人ぐらいしかいなかった。その頃、参議院議員になったばかりの保坂さんが自民党と都連のパイプ役として一生懸命、汗をかいておられたことを覚えています。そんな保坂さんの地道な活動ぶりをずっとみてきた私としては、もう一度、保坂さんを国政へ送り出したいと願っているのです。実は保坂さんは、これまで選挙に負け知らず。七三年から都議会議員を連続六期務め、九五年の十七回参議院選挙で東京選挙区から当選、〇一年の第十九回参議院選挙で二期目の当選、そして〇七年の第二十一回参議院選挙で敗れて落選ということとなります。保坂さんが落選した時の年齢は六十八歳です。六年後の参議院選

挙には年齢制限があり、立候補できないんです。そこで私はどうかして保坂さんを国政に戻してあげたいという老いの一徹で、今年実施される衆議院選挙の東京比例区で立候補できないかと考えたのです。それには、「保坂さんを衆議院東京比例区へ」という大きな声が周りから起きなければなりません。

まず、私が代表世話人をやっている東京都各種団体協議会が、衆議院東京比例区候補として保坂さんの推薦を決めました。その後続々とさまざまな団体が保坂さん支持に動いてくれました。そうした動きの中で、内閣支持率が低下しているこの御時世にあつて、新規の自民党員が四千名近くも集まったのです。そこで私は早速、推薦団体と新規党員名簿を持って、自民党の古賀誠・選挙対策委員長長の所へ行き、保坂さんの衆議院東京比例区での立候補をお願いしたわけです。古賀先生はこうおっしゃった。「今、こういうお願いはたくさん来ています。同じく落選した片山虎之助先生からも来ています。いずれにしろ、比例区の優先順位は小選挙区での惜敗率で決めています。保坂先生も一度、小選挙区にお出になられて惜敗してからでないといわずかしいと思います。」

そういうことなら、私は保坂さんに小選挙区出馬を打診しました。ところが保坂さんは、「すでに決まっている小選挙区の立候補者を押し退けてまで自分が乗り出していくのは、私の性分としてできかねます」と言う。それならばと、二〇一〇年夏に行われる第二十二回参議院議員通常選挙の比例区出馬を打診しましたところ、本人は「やります」ときっぱり言われました。私は心の中でそっと安堵した次第です。と言いますのは、自民党執行部はすでに参院選比例区公認決定作業に入っているよいうで、〇七年参議院選挙の選挙区の惜敗候補を参議院比例区で「登用」することを検討していると漏れ聞いていたからです。

次補正予算関連法案は三月四日、衆院本会議で成立しました。大騒ぎした「定額給付金」はこれで実施される運びとなったわけです。この補正法案の中に運送関連の法案も含まれています。二つほど取り上げますと、一つは、高速道路料金の引き下げで、「平日昼間は全車種三割引」と「休日千円で走り放題」という割引制度。後者の対象は自動車料金收受システム（ETC）搭載の普通車で、地域は東京と大阪の近郊を除く全国。これに対し、「トラックの方が先でも良かったのでは。そのほうが企業の競争力向上に貢献したはず」という声が各方面で上がっております。経済対策である以上、不況とコスト高にあえぐトラック業界の負担を減らすのが筋というわけです。ごもつともな指摘だと思えます。国はさらなる高速道路料金の引き下げに知恵を絞っていただきたいと思えます。もう一つは「中小トラック事業者構造改善支援事業」というものです。中小トラック事業者が行う省エネ対策に対し、〇八年度第一次補正予算に引き続き、今回の第二次補正予算においても、国の直接助成措置が実施されることになりました。前述しましたように「百年に一度の経済危機」の中、業界だけでなく国民すべての最大関心事はなんといっても景気対策です。実効ある助成を力強く実施していただくことを強く要望する次第です。

☆「月刊ベルダ誌」4月号に掲載されたものです。お許しを得て転載しました。